

公益財団法人 島根県育英会

# 寄附金 募集 のお願い

## ご挨拶



島根県育英会は、昭和33年の設立以来、県内出身の優秀ながら経済的に就学が困難な学生・生徒に対し、就学の便を図り社会に

有為な人材を養成することを目的として、奨学金・就学資金の貸与や給付、また大阪での学生寮運営などを行っています。

当会はこれからも変わらず使命を果たして参りますが、そのためには他の財源に頼らない財政基盤の構築が重要です。皆さま方には当会の事業にご理解とご賛同をいただき、是非ご寄附をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

公益財団法人島根県育英会

理事長 廣澤卓嗣



公益財団法人 島根県育英会

# 寄附金募集

島根県育英会では公益目的事業を実施しています。こうした事業活動にご理解ご賛同いただき、是非ご寄附をお寄せください。お預かりした寄附金は有効に活用させていただきます。

- I 大学等の学生を対象とした奨学金及び就学資金の貸与又は給付事業
- II 大阪学生会館の運営事業
- III 専修学校進学者特別支援事業
- IV 高等学校等の生徒を対象とした高等学校等奨学資金貸与事業
- V 中山間地域・離島での資格取得促進事業

## 寄附金の種類

### 1 目的を指定しない寄附

主に基本財産に積み立てられます

支援いただいている方々 ※平成22年度以降分

● Y.J様(益田市)	11,500円	● S.U様(松江市)	10,000円
● A.O様(松江市)	1,000円	● H.F様(米子市)	200,000円
● J.U様、N.S様(茅ヶ崎市)	それぞれ50,000円	● E.N様(出雲市)	2,000,000円×2回
● S.A様(浜田市)	50,000円	● T.U様(大阪男子寮OB)	50,000円
● T.K様(奨学金利用者)	20,000円		

### 2 目的を指定した寄附

公益目的事業の一部に活用されています

ご寄附いただいている方々と事業

#### 中筋給付特待生制度

人材育成に情熱を持つ中筋経営本部長からグループの創立50周年事業の一つとしてご寄附をいただきました。平成16年以降毎年3百万円をいただき、奨学金が給付されています。



● 中筋グループ  
経営本部長 中筋豊通様

「社会のために存在し、社会と共に繁栄する」という私たちのグループの経営信条のもと、私自身「会社も個人も社会に生かされていること」が分かる人、「おかげさまで」という気持ちを持つ人を育てたいと強く思っており、

グループの50周年記念事業の一つとして人づくりのため島根県育英会への寄附を始めました。

寄附の用途に特に注文はありませんが、家庭の事情などにより進学を諦めることのないよう、一人でも多くの方が「生きていてよかった」と思えるような世の中作りに役立ててもらいたいものです。

私たちのグループの寄附が育英会の「中筋給付特待生制度」として給付型奨学金の財源として利用されていることにたいへん喜ばしく思っています。



● 中筋給付特待生  
浅沼遥さん  
(島根大学在学中)

私は3人兄弟の末っ子として生まれ、幼い頃からひとり親家庭で育ちました。母への負担を考えると、6年制の医学部に進学することを躊躇しましたが、中筋給付特待生に選んでいただいたことで、進学を決意することができました。大学生活はアルバイトをする暇もないくらい勉強で忙しく、教材費や実習費もかかり大変ですが、奨学金のおかげで毎日楽しく学んでいます。これからも中筋グループの皆様、島根県育英会の皆様をはじめ自分を支えてくれている方々への感謝を忘れずに、医師になるという夢に向かって頑張ります。

## 大谷奨学金制度

奨学金事業の窮状を知った故 大谷重友氏(浜田市出身)から平成20年以降4千5百万円のご寄附をいただきました。以後「大谷奨学生」として奨学生枠が2名広がり、石見出身者が採用されています。



### ● 長男仁志氏が 見た大谷氏

父は家庭の事情で大学進学ができず苦労しながら建設会社を興し、地域に貢献できる会社を目指しました。その経験から、常々教育

は国の大本であり、将来を担う若者を育てることが重要と考えていました。

そんな折、島根県育英会が財政難から奨学生の枠が少なくなっていることを知り、育英会への寄附を思い立ったようです。そして「大谷奨学金」という名称で、毎年2人の若者への支援となっていることを喜んでいました。

父は十年前に亡くなりましたが、私も父の思いを引き継ぎ、若者を支援していきたいと思っています。



### ● 大谷奨学生 三浦翔太さん (島根大学卒業)

私は、大谷奨学生として大学で好きな化学、物理学等の工学を中心に学んでいました。現在は様々な知識が必要とされる電気関係の仕事に就き、地元島根の暮らしを豊かにする為に日々頑張っています。

私の学生生活において大谷奨学金は、不自由なく学業に専念させて頂けただけでなく、就職活動の際に自己PRにも掲げた、大変私にとって価値、名誉あることでした。

私は大学に進学して将来の自分の選択肢・価値観を広げることができました。そして人生の中で本当に楽しく、充実した期間を過ごすことができ、今があります。

現在、コロナウイルスの影響で社会が変わり、それに伴う事情で大学進学を諦めている人もいるかと思いますが、奨学金はそういった人の未来を消さない為にあります。だから、進学を諦めることは絶対にやめましょう。

## maruko 教育基金

ふるさと島根に強い思いを持たれる小原さんから令和2年に5千万円のご寄附をいただきました。「maruko教育基金」が創設され、高い志を持つ優秀な学生に奨学金が給付されています。



### ● 小原丸子様 (東京都在住、 安来市(旧布部村)出身)

私は安来市の旧布部村の出身で、松江高校卒業後東京の短大に進学し以後60年以上島根を離れて暮らしています。しかしどんな時にもふるさとのことを忘れたことはなく、ずっとふるさとに支えられてきたと思っています。だから今の子どもたちにも島根を愛してほしい、郷土愛を育ててほしいと強く願っています。

私の寄附で「maruko給付特待生」制度が作られ、立派なふるまいで大学で勉学に励む学業優秀な学生を支援し、将来にわたって有形無形にふるさと島根のために貢献する人材を育成・支援できることを本当に嬉しく思います。



### ● maruko 給付特待生 宮島孟史さん (京都教育大学在学中)

高校時代、空き家を改修し地域内外の人たちが集まれる場所を作りました。生徒と住民が一緒に取り組んだこの活動は私にとって最も記憶に残るものとなりました。高校生という多感な時期にどんな人に出会いどんな体験をするのか、その経験が進学などで県外に出たとしても故郷に帰り働きたいと思わせるのではないのでしょうか。

私は島根で高校教師となり、島根のことを考える高校生を育てることを目標に京都の大学で勉学に励みます。

奨学金は想像以上に多忙な大学生活を支えてくれるとても力強い味方で、本当に感謝しています。ありがとうございます。

## その他の寄付

### ● H.Y 様(大阪女子寮OG)

大阪学生会館の運営のために役立ててほしいとの願いから令和2年に2万円のご寄附をいただきました。ご寄附は学生会館会計に積み立てられ、様々な経費の一部に充てられています。



島根県育英会は、平成23年3月24日に島根県知事の認定を受け「公益財団法人」となりました。これにより当会への寄附金には、特定公益増進法人としての税法上の優遇措置が適用されます。

- 個人：所得控除(所得税法第78条第2項第3号)
- 個人：税額(道府県民税)控除(地方税法37条の2第1項第3号)
- 法人：損金算入(法人税法第37条第4項)

受領証明書の送付 | 寄附金が入金されたことを確認した後、「寄附金受領証明書」を送付いたします。

## 寄附金のお振込み先口座

山陰合同銀行 県庁支店 普通預金 No.2239306  
公益財団法人島根県育英会

\*恐れ入りますが、振込み手数料はご負担ください。

## 問い合わせ先

### 公益財団法人島根県育英会

Tel. 0852-28-1981

e-mail [info@shimane-ikuei.or.jp](mailto:info@shimane-ikuei.or.jp)

<https://www.shimane-ikuei.or.jp>

(担当：黒田)

発行：2021年6月

大阪学生会館

